

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(20) 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本 (伊勢原市笠窪)

標本番号 KPM-NP 12

標本名 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本

大きさ (分割枚数) 横に分割 (3 枚)

KPM-NP 12-1: 幅 0.54 m, 高さ 0.8 m

KPM-NP 12-2: 幅 0.87 m, 高さ 0.87 m

KPM-NP 12-3: 幅 1.17 m, 高さ 0.87 m

重量

KPM-NP 12-1: 展示中のため不明

KPM-NP 12-2: 5.0 kg

KPM-NP 12-3: 5.9 kg

形状・展示・収納状況 KPM-NP 12-1 は、板に固定した状態で常設展示 (神奈川展示室)。KPM-NP 12-2, 3 は、薄い絨毯状、巻いて大型移動棚に収納

採集地 神奈川県伊勢原市笠窪

緯度・経度 N35°23'13", E139°16'53"

標高 30 m

露頭の種別と現状 造成地の人工露頭、消失

露頭面の向き、傾斜 おおむね E-W、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 1707 年 (富士宝永テフラ)

採集作業 森山哲和 (考古造形研究所)

採集立会者 今永 勇

採集日 1993 年 1 月 24 日

関連文献等

宮地直道 (1984) 富士火山 1707 年火砕物の降下に及ぼした風の影響. 火山 (第 2 集), 29: 17-30.

町田 洋・森山昭雄 (1968) 大磯丘陵の tephrochronology とそれにもとづく富士および箱根火山の活動史. 地理評, 41: 241-257.

岡 重文・島津光夫・宇野沢 昭・桂島 茂・垣見俊弘 (1979) 藤沢地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅), 地質調査所. 111pp.

解説 標本は KPM-NP 12-1 ~ 3 に 3 分割され、そのうち KPM-NP 12-1 が生命の星・地球博物館 3F 神奈川展示室で展示されている。標本採取場所の伊勢原市笠窪は、鈴川、大根川に挟まれた鶴巻台地にあり、町田・森山 (1968)、岡ほか (1979) より下末吉面とされている。富士宝永 (F-Ho) テフラは、宮地 (1984) により Ho I ~ IV に分けられているが、標本中の F-Ho テフラは耕作地に堆積したものとみられ、全体的に乱されており、堆積時の状態を保存していると考えられる部分は極めて少ない (スケッチ中の実線で囲んだ部分)。白色軽石を含む Ho I は最下部に散在する程度、その上に Ho II が 2 ~ 3 cm の厚さで覆う。さらにその上位の Ho III、IV は 4 cm 程度の厚さであったが、保存が良ければもう少し層厚は増すと考えられている。その他の部分はスコリア粒子の間に土壌や丹沢層群起源の岩片が入り込み、テフラ粒子も Ho I ~ IV が混ざった状態となっていた。この部分は最大層厚 20 cm 程度であった。

記録者 笠間友博

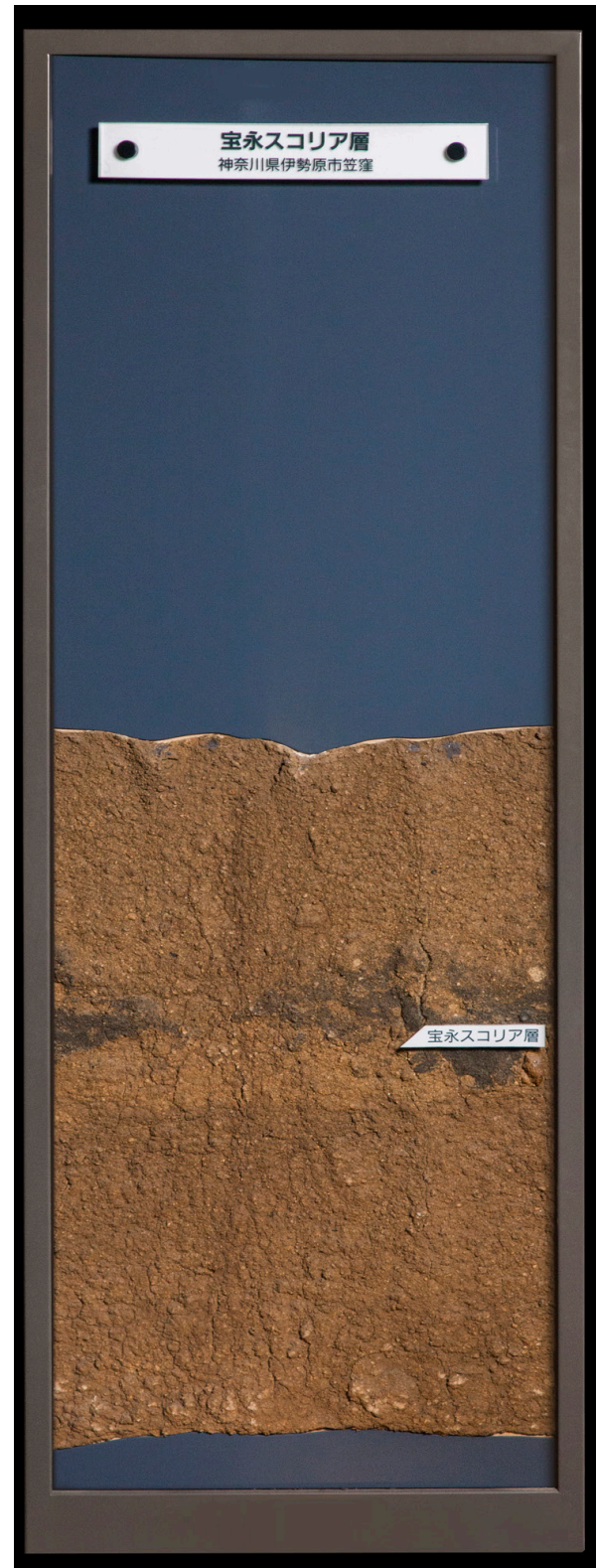


図 Ia-20-1. 剥ぎ取り標本 (KPM-NP 12-1) の写真 (神奈川展示室) (中村 淳氏撮影)。



図 1a-20-2. 剥ぎ取り標本の採集の様子.



図 1a-20-3. 分割する前の標本写真.

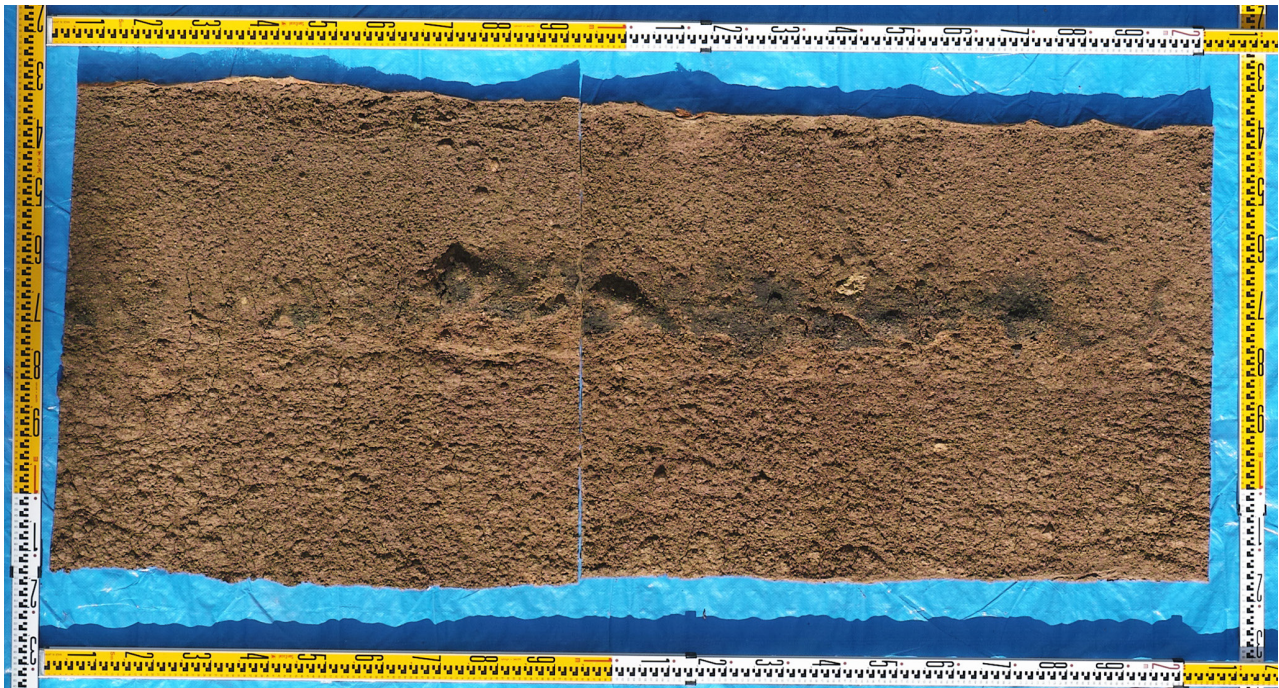


図 1a-20-4. 剥ぎ取り標本 (左: KPM-NP 12-2, 右: KPM-NP 12-3) の写真.

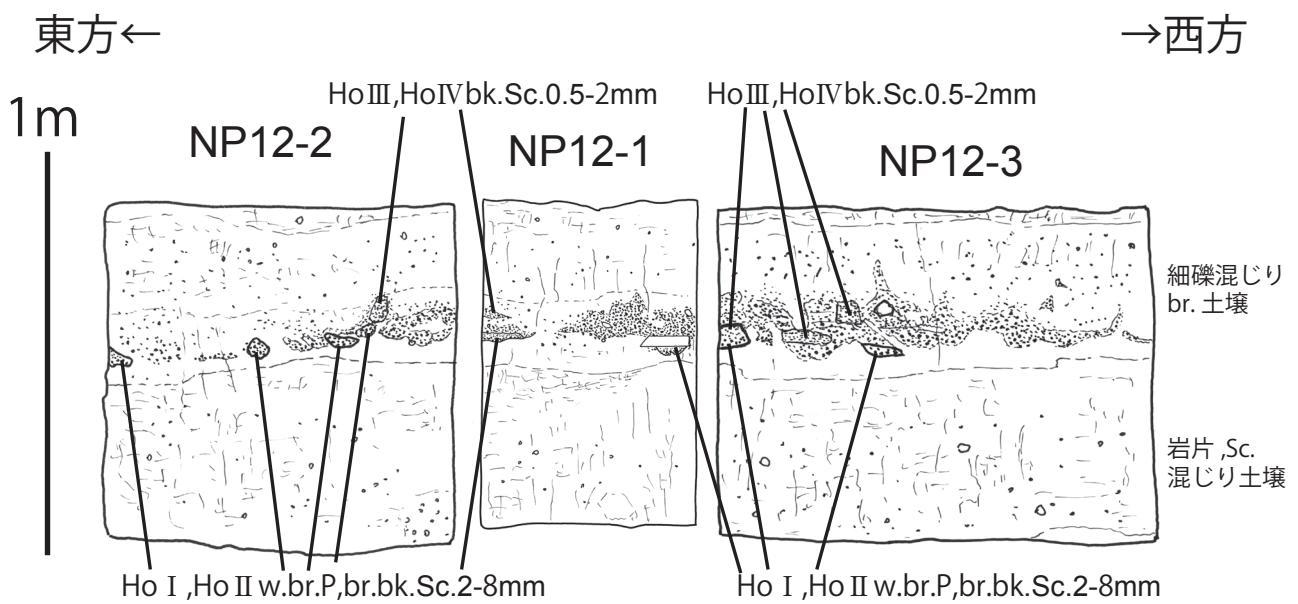


図 1a-20-5. 剥ぎ取り標本のスケッチ (笠間原図).